

## 厚労科研大西班会議議事録\_20250123 看護・教育体制・患者目線

日 時： 2025/1/23 (木) 12-13 時

方 法： Zoom

出席者 (順不同、敬称略)： 大西洋、内田、青木美和、渡辺、小宮山貴史、草間朋子、齋藤正英、岸田(厚生労働省)、北國(厚労省)

### 議案

- ・ 会議に先立ち大西先生より挨拶があった。その後、研究分担者による進捗報告があった。

### (看護関係に関して)

#### 草間朋子先生

- ・ 【研究テーマ】 放射線治療提供体制における「看護モデルの構築」 —がん放射線療法看護認定看護師(CN)の効果的・効率的な活動を目指して—
- ・ 【研究方法】 質問紙調査により、CN が在籍している全国 174 の医療施設の看護部長(139名)、看護師(566名)、放射線腫瘍医(350名)、CN(196名)から①CNの活動実態、②CNの活動上の課題等に関する意見を収集した。
- ・ CNの配置により変化したこととして、看護部長からは「看護師の放射線に対する不安が減少した」が挙げられた。また看護師からCNがいることによって、「放射線科に勤務することの不安が軽減した」という結果が得られた(8割くらい放射線科では勤務したくないとの回答もある)。また放射線治療医からは、「患者の治療に対する理解・協力が得られ治療がやりやすくなった」、「医師からの患者への説明に費やす時間が短縮した」という意見があった。
- ・ CN配置の必要性についてはどの職種からも9割近くの方が必要であるという回答があった。一方で、CNの方自身がCNとして活動ができているかという設問については7割が満足もしくは実践活動ができていないという回答であった。理由としては時間的余裕がないことが最も多く、その他、現場の理解の不足や自身の知識・技術の不足という回答などが挙げられた。
- ・ 放射線治療におけるCNの効果的・効率的な活動のための提案(意見)

#### 【制度的な仕組み作りに対する働きかけ】

- がん診療連携拠点病院の施設基準としてCNの配置を義務付ける
- 現状:看護師の配置が義務つけられ、CNの配置が「望ましい」とされている
- 診療報酬の加算対象(運用上、施設基準と齟齬がないようにする)
- 処遇の改善(専門職としての処遇:管理職を併任しないために)

- 養成施設の増設(現状は2ヶ所)と養成教育のレベルの再検討

#### 【施設に対する働きかけ】

- CNの適切な配置
- CNの業務の明確化周知
- 病院管理者のCNに対する理解・認識の促進
- 医療スタッフのCNに対する理解・認識の促進
- 病院スタッフのCNに対する理解・認識の促進
- CNの処遇の改善

#### 【CNが行うこと】

- CNの業務の可視化とPR
- チームワークと他職種連携の促進
- CNのコミュニティー作り
- 自己研鑽

#### 青木美和先生(荒尾晴恵先生)

- ・ 研究テーマ: 看護の立場から適切な放射線治療提供体制を検討
- ・ R5年度については、諸外国の基準を参考にした苦痛緩和に必要な専門的な看護師数の算出を行った。R6年度については「頭頸部がん患者における放射線療法期間中の患者報告アウトカム(PROs)に基づく急性期有害事象と日常生活への影響に関する後方視的研究」を実施している。大阪大学医学部附属病院観察研究倫理審査委員会に申請し、研究実施許可を得た医療情報部にデータの抽出を依頼中である。また、認定看護師の活動成果に関する文献調査も行う予定である。

#### 厚労省より看護関係に関してコメント

- ・ 岸田先生より、CNは現在どれくらい拠点病院に配置されているのかという質問があり、草間先生より現在CNは全国で400名弱であるため、全部ではないが拠点病院の多くに配置されているのではないかと回答があった。また、一般看護師が放射線治療に関して説明するのは難しいため、CNを中心として進めていくのが望ましいのではないかとコメントがあった。
- ・ 青木先生より、CNは治療室等に直接配置されることが難しい場合も多く、その判断は施設依存になっているため、拠点病院への配置人数は充足されているように見えるものの放射線療法看護に実質的に関与できているC数は限られている可能性があるというコメントがあった。また放射線治療施設数に対するCNの充足率についても既に報告しているため参照いただき

たいとのコメントがあった。

- ・ 大西先生より、霜村先生のデータの中に拠点病院の看護師の状況が含まれており、そちらも参照いただきたいというコメントがあった。
- ・ 岸田先生より、今後、看護師の詳細な実態についても教えていただきたいとの意見があった。
- ・ 北國先生より、現状 CN が 400 名という状況で、がん診療連携拠点病院数とも照らし合わせて考えると必須要件は難しいのではないかというコメントがあった。また、CN の方が現場で何が求められているのか、病院側とニーズが一致していないことが問題の一つではないかと考えるため、CN の目的をより明確にすべきではないか、というコメントがあった。

### (教育体制に関して)

#### 内田 伸恵 先生

- ・ 放射線治療専門医のあるべき教育体制に関する検討
- ・ R6 年度の研究進捗状況として、学会が提供する教育ツールの利用者を対象とする満足度調査の実施を行った。ただし回答数が低く(63/400)、現在検討中。
- ・ また教育講演後の「質問受付@オンライン」システム構築検討中。
- ・ 渡辺先生より、回答数の増加については長期的な仕組みを構築しなければならないというコメントがあった。
- ・ 大西先生より、本テーマはここで一旦打ち切りとなるが、整備指針等の整備を含め、何かしらの提言をまとめていただきたいというコメントがあった。
- ・ 岸田先生より教育体制については今後学会で詳細検討いただきたいというコメントがあった。
- ・ 北國先生より、アンケートシステムについてはアンケートを書かないと単位を与えない等、学会を中心に、仕組み自体を整備すべきという意見があった。

### (患者目線の在り方について)

#### 小宮山 貴史 先生

- ・ 【研究テーマ】 患者側の視点による、あるべき放射線治療提供体制の構築
- ・ 【研究課題】 「あるべき放射線治療の提供体制」に関する患者と医療者の意識調査
- ・ 【研究目的】 患者の視点で考える「あるべき放射線治療提供体制」と、治療を担っている医療者が考えている「あるべき放射線治療提供体制」に、乖離の有無を明らかにし、乖離があればその乖離点について検討する。
- ・ 【研究デザイン】 web 及び紙媒体による無記名アンケートを全国で展開し、意見を集約。アンケート結果の解析を行い、今後の放射線治療の提供体制に向けての提言を作成する

- ・ 【対象と方法】 患者:研究者らが所属するがん患者会等のネットワークなどから全国のがん患者会等に対して会員にアンケートへの参加を依頼する。加えて、研究者らが実施するがん啓発イベント等に参加したがんサバイバー等にアンケートへの参加を依頼する。また、研究者らが所属する施設に通院する患者にアンケート調査を依頼する。医療者:日本放射線腫瘍学会の正会員、準会員にアンケート調査を依頼する。
- ・ 今後の予定として、2025年1月中 倫理審査承認、2025年2月-3月 アンケート調査実施  
2025年4月-5月 結果解析、JASTRO 演題登録 2025年6月提言作成を予定している。
- ・ 大西先生より、整備指針との関連性が重要であるというコメントがあった。
- ・ 岸田先生より患者さんの生の声を伺うという点では貴重な機会であるという意見があった。また、回答者がばらつくかもしれないという意見や、放射線治療をあきらめた患者さんの声も重要であるという意見があった。さらに、SDM についての患者の意見も重要であるという意見があった。
- ・ 北國先生より、重粒子線等の配備に関する質問は既に医療者の目線が入っており、当該部分などのバイアスを減らしてもよいかもしれないという意見があった。
- ・ 小宮山先生よりアンケート内容を調整させていただくとのコメントがあった。

岸田先生より総括として、持続可能性を意識したうえで体制整備が必要であるというコメントがあった。また、あるべき提供体制については、最終的にすべて一覧でどうあるべきかを表示していただけると、今後厚労省としても引き続き検討するうえで貴重な資料となりうる。取りまとめは大変であると思うが引き続きご協力をお願いしたい、というコメントがあった。

以上

文責 大西 洋